

今日の説教のポイント<使徒言行録 13 章 42～52 節>

①「神の恵みの下に生き続ける」が意味すること。

パウロは、「神の恵みの下に生き続けるように」と勧めました(43 節)。「神の恵みの下に」と言っても、裕福とか健康とか順風満帆の下に、と言っているわけではありません。どんなに貧しくても、病の中にあっても、八方ふさがりの状況でも、「神様のご支配の中を私たちは歩んでいるのだ、だから何も心配することはない」と思いながら生きて行ける恵み、そういう恵みを言っているのです。アンティオキアの人たちは、パウロからイエス様の話を聞いてこの恵みを悟ったのです(16～41 節)。

元のギリシア語を直訳すると、「神の恵みに留まり続けるように勧めた」となります。「留まり続ける」とは、「これからも、イエス様、聖書の教えを学び続ける」ということです。なるほど、御言葉から深く学んで行くほど、私たちから色んな不安は消えて行くのです。価値観、物の見方が変えられて、主にお委ねして行けばいいと思えるようになって行くのです。礼拝で御言葉を聞き続けることの大切な所以です。

②神様は全ての人を赦された(コロサイ 1:20)。後はただ、私たちができるだけ早く「神の恵みの下に生き続ける」者になること。

「神は、…その十字架の血によって平和を打ち立て…、万物をただ御子によって、ご自分と和解させられました」(コロサイ 1:20)。聖書が告げる、圧巻の、神様の恵みの福音です。全てはこれから思考です！

「永遠の命を得るように定められている人は皆、信仰に入った」(48)を読んで、「それなら、得られないように定められている人もいるのか」と思っはなりません。46 節でパウロは、キリストの救いを拒む人たちに向かって、「あなたがたは…自分自身を永遠の命を得るに値しない者になっている」と語っています。「あなたがた」であって、「神様」ではありません。神様は、この人たちも神様が用意して下さったキリストによる罪の赦しの恵みを悟り、神様に罪を悔いて立ち帰ることを待っておられるのです。その時に、48 節の言葉はこの人たちにも当てはまるのです。はっきりしていることが一つあります。一日も早く、「神様の恵みの下に生きる者となる」(43)方が幸いだということです。